

# 「広域的な地区連絡会議を実施して、課題解決の糸口を見つける」

京都府 伊根町農業委員会

## 1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

|                |       |
|----------------|-------|
| ○ 農業委員：        | 11人   |
| ○ 農地利用最適化推進委員： | 3人    |
| ○ 事務局職員：       | 4人    |
| ○ 市町村行政との連携状況： | 職員は兼務 |

地区連絡会議は旧村単位で3組織 任意回数開催

( 写 真 )

## 2 地区の特徴、状況、課題

丹後半島の先端部にある。旧村4地区からなり、1地区は漁村集落だが、3地区は主に農村集落。平地の少ない中山間地で、水稻中心。一部そばや施設野菜が栽培されている。後継者不足と獣害が深刻で、年々経営規模が縮小している。



## 3 委員による継続した話し合いの取組内容

旧村の伊根と朝妻で1つ、本庄で1つ、筒川で1つの計3つの地区連を組織  
利用状況調査に係っては必ず1回、そのほか必要な議事があれば随時開催  
令和2年は本庄と筒川で、将来の営農に係る意見交換の会を行う計画

## 4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

利用状況調査に係る内容で、各地区1回会議を持った。  
意見交換会はコロナ禍の状況を鑑み開催せず  
農家の意向を収集するため、郵送による意向アンケート調査を実施した。